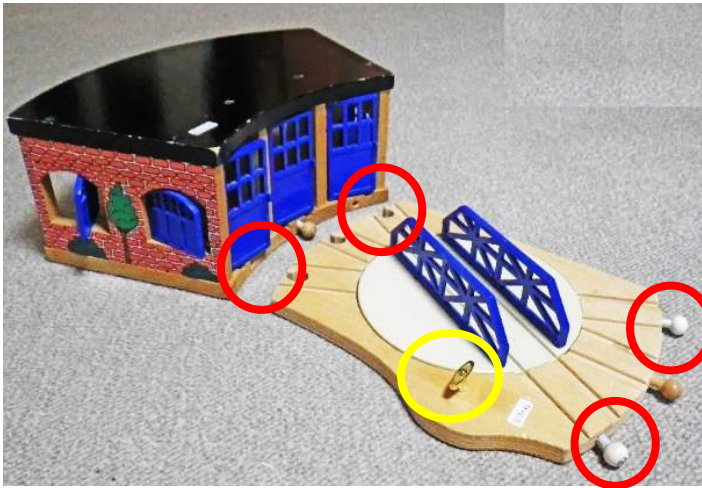


木の機関車庫と転車台、木の鉄琴

ゆきや 2021.07.05



木製の機関車庫と、転車台の修理依頼が来ました。スウェーデンのプリオの製品のようですが、もちろん今のカタログにはありません。(プリオでも今は殆どプラスチック製品になっています)

機関車庫の扉・窓枠などは金属製で、大変な重量感です。

こわれているのは、車庫や転車台の

- ①レールをつなぐ球形のジョイント(赤丸)
- ②転車台を回すハンドル(黄丸)などです。

(写真は一部治った所です)

①レールのジョイント

元来は堅い樹の丸棒を削って作られていました。

おたまじゃくしの様な形で、球の直径はおよそ10ミリ。

それに太さ6ミリ、長さ25ミリ程の柄が付いて、躯体に差し込まれています。長年の間に抜け落ちたり、レールの着脱の際に折れたりしたのでしょう。

さて今回無くなっているジョイントは全部で4カ所。

初めは木を削り出すことを考えましたが、手持ちの材が柔らかく長持ちしそうにない事、逆に堅い材では作業が難しい事を考えて断念しました。

次に考えたのは、別な材料で代用する事です。

手許に10ミリ径の穴あき木球(ボール)がありました。

これに2ミリ径の皿ビスを通し、根元には6ミリ径の塩ビパイプを使う事で、何とかオリジナルに近い形のものが出来そうです。これならば量産も可能です。



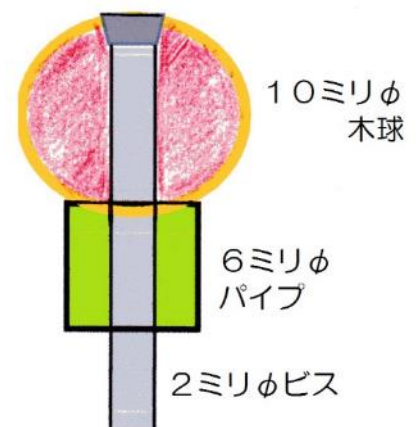
図にするとこんな感じです。

これだと躯体に15ミリ位はねじ込む事が出来、折れたり抜けたりすることも無いでしょう。

(木の風合いは若干失われますが)



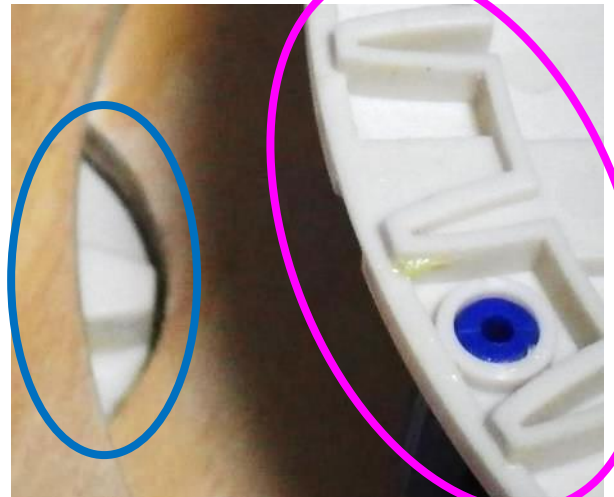
なお、木球の上端は、皿ネジに合うように、穴の縁を削りました。





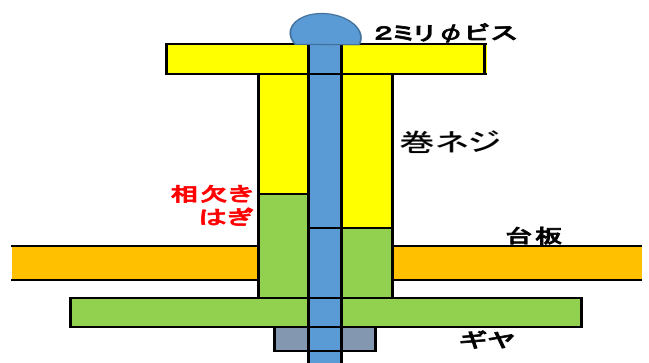
これが出来上がった新しいジョイントです。
着脱を滑らかにするために、ボールの部分にはオイルを塗りました。

② 転車台のハンドル



転車台の仕掛けは非常にシンプルで、ハンドルで歯車（青丸）を回すと、台の裏側の円周の歯車（紫丸）と噛み合って台を回すのです。所が、ハンドルが折れて根元から無くなっています。残っていたのは、歯車と傷んだハンドル軸の根元だけです。ハンドルが元来どんな形になっていたのか、皆目分かりませんでした。何か実物そっくりのものか？ それとも割り切ったシンプルなものか？

参考になったのは、今ブリオで販売している転車台の写真です。円形台の隣に赤いつまみ（白丸）が写っています。指先でつまんで回す感じでしょう。それならばと考えたのは、オルゴールの巻ネジでした。



これならば手ごろな長さの軸も付いています。
 巻ネジには2ミリφの穴を開け、ビスを通して歯車の裏でナットで絞めました。
 歯車の軸と巻ネジが良く噛み合うように、接合部は図のような「相欠きはぎ」にしました。



つまみが付いて完成した転車台です。

☆木の鉄琴台

同じ依頼者から木の楽器の修理もきていました。
 日本のエド・インターというメーカーの
 「森のメロディーメーカー」です。
 鉄琴を留めている木釘が2本無くなり、
 鳴らせなかったのです。



この場合は、先程と同じ10ミリφの木球
 使って木釘を作りました。
 木球を半分に切って、芯棒を入れたのです。
 芯棒には、竹の割り箸を削って使いました。



半分に切った
 10ミリφ
 木球

木釘



新作の木釘

オリジナルの木釘